



▲違和感なく装着できるフロントグリル用LEDデイライトもオプションで用意

# IMPUL

## インパル キャラバン

### 機能性を犠牲にしないスマート・スタイル!



▲リアウイングは小ぶりながら左右両端の造形など、複雑かつ特有のデザインは健在だ



▲左右別体式リアハーフスポイラーは、黒い部分はダクトではなくパネルになっている



▲インタビューに応じてくれたのはホシノインパルの金子哲也氏(左)

#### ◆インパル キャラバン パーツ一覧(○は撮影車両装着パーツ)

○エアロダイナミクスシステム(単体価格…フロントハーフボイラー:5万4000円/リアハーフスポイラー5万4000円/ドアパネル:7万1400円/リアウイング:4万4100円/フロントグリル:3万3600円・各未塗装) ○エアロサイドバイザー1万9950円 ○フロントグリル用LEDデイライト:2万1000円 ○インパル シルエット E26キャラバン用(2WD/4WD):2万6250円/1本 ○IMPULエンブレム(EC-02&EC-03):各7350円 ●イルミネーションエンブレム:1万3440円 ●ブレーキパッドDATA-G(2WD):価格未定



#### あの大ヒット商品を復活!!



▲シルビアスーパーシルエット(上)などに装着され、80年代初頭の大人気アイテムとなったホイール“インパル シルエット”(左)が復活。オリジナルの特徴を生かしつつ、キャラバン用に6穴化されている



▲デモカーはテスト中の試作スプリングを装着していたため、若干ローダウンされていた

跳ね上げ大きな荷物を出し入れを  
考へての結果。テールゲートを

とされているところだ。  
実はコレ、荷物の出し入れを  
考へての結果。テールゲートを  
跳ね上げ大きな荷物を出し入れ

面白い。  
さらには注目しておきたいのが、  
テールエンドのリアハーフスボ  
イラーだ。フロントバンパーで  
下げられたラインからつながる  
デザインで構成されている。こ  
こまでは他のインパルエアロ  
と変わらない統一感ではあるが、  
キモは何と言っても左右二分割  
とされているところだ。

もイジる楽しみがあることは事  
実なのだ。だからこそインパル  
はこのキャラバンのカスタマイ  
ズに手を付け始めたのだろう。  
とはいえ、キャラバンをこれ  
まで同様のインパル流で染めた  
わけじゃない。変更されたグリ  
ルこそや派手目な印象がある  
ものの、それ以外はかなりシッ  
クにまとめられているところが

る人々が多く、かなり盛り上が  
っている。こうしたクルマ達に  
もイジる楽しみがあることは事  
実なのだ。だからこそインパル  
はこのキャラバンのカスタマイ  
ズに手を付け始めたのだろう。

クルマの性格に合った  
細やかな配慮が嬉しい  
キャラバンというワゴン仕  
様はあってもあくまで「仕事の  
ための道具」といったイメージ。  
インパルとのつながりを感じる  
ところはなく、まさか手を付け  
るとは想像していなかった。

さる際、引つけないようにと  
考へられている。使い勝手の良  
さはそのままなのだ。

末広がりな安定感を実現しな  
がらも、この手のクルマとして  
欠けてはならない実用性をきち  
んと満たしているところに、イン  
パルの思いやりを感じる。こ  
れまでド派手なウイングを何台  
かに装着していたが、視界は一  
切変わらなかつた信頼の造りが、  
このキャラバンにも備わってい  
るといふことなのだ。

一方でフットワーク系にも注  
目のアイテムが隠されているこ  
とを見逃してはならない。それ  
はズバリ、キャラバン用に新た  
に仕立てられたインパル・シル  
エットという名のホイールだ。  
これはインパルが創業開始した  
33年前に発表されたホイールデ  
ザインを踏襲し、このクルマの  
ために新たに製作されたリバイ  
バルモデル。特有のディスク形  
状を採用することで、キャラバ  
ンが生み出すサイドシルエット  
に、見事に溶け込んでいる。

サイズは純正が装着する19  
5/80R15をそのまま組み付け  
ることが可能だ。変にインチア  
ップに走らず、さらには往年の  
ヒット作を復活させたあたりが  
面白い試みだ。

約20mm、リアは約35mm低くなつ  
ている。乗り心地も走りも両立  
する仕上がりを展開していた。

今の日産車は、正直に言っ  
てしまえば走りのクルマでイジつ  
て楽しめるような素材が少ない。  
それよりもエコであることや実  
用性の追求、さらには上質であ  
ることを追い求めるあまり、遊  
び心を失ってしまったかのよう  
にも見えてならない。

**インパルがインフィニティの輸入を開始！**



▲オートサロンのインパルブースにはFX50（左）とQX56（右）を展示

インパルでは、3月より北米仕様車の輸入業務を正式に  
スタートさせる。代表的な車種としてはインフィニティの  
QX、FX、M、そして日産ブランドのバトロールやクレスト  
などを予定している。並行輸入車両という保証やメン  
テナンスが気になるところだが、それに対してもきちんと  
した体制を整えてのスタートを切る。また、導入するモデル  
向けにインパルのパーツをラインアップ。希望があれば  
それもセットで購入できるようにする。つまり、単に車両  
を輸入するだけでなく、高品質なカスタムカーに仕上げた  
うえでユーザーに提供するというわけだ。現在はFXとバ  
トロールのエアロパーツをラインアップしており、価格も  
決定済み。気になる人はインパルのホームページをチェッ  
クして欲しい。

だが、インパルはそんな状況  
下でも試行錯誤を繰り返してきた。するとどうだろう？ 元の  
状態があまりにおとなしかった  
ために、かえってインパクトを  
感じるクルマが次々に誕生して  
くる。今回の2台はまさにその  
代表例。まさにインパルのチュ



ーニングマジック炸裂！といっ  
た感じである。こうしたノーマ  
ルとのギャップを楽しめるとい  
う意味で、インパルは今かなり  
面白いのだ。